

第7回看護師のための認知症ケア講座

開催のご案内(オンライン講座)

《認知症ケア加算2・3該当研修》

後援 日本慢性期医療協会

共催 埼玉県病院団体協議会(日本医療法人協会埼玉県支部、日本病院会埼玉県支部、全日本病院協会埼玉県支部)

2025年には、認知症高齢者は約700万人に上ると言われ、実に65歳以上の5人に1人が認知症を持つと言われていています。認知症は誰もが身近な病気であり、超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護の従事者は全員、認知症ケアのプロであることが求められるようになるでしょう。このような背景から、平成28年診療報酬改定では認知症ケア加算が新設され、医療保険でも身体拘束廃止に向けての取り組みがようやく本格的に進められようとしています。認知症は、医療関係者のみでなく地域としても対応しなければならないものですが、その要となるのは看護師の皆様です。本講座では、認知症を知り、認知症をもつ人と向き合い、多職種チームでよりよいケアを提供できるよう、看護師の皆様に焦点を絞った研修を行います。

埼玉県内の施設間において県民へ質の高い医療・看護・介護を厚く提供するという当協会の主旨に沿い、認知症に向き合うプロを目指す皆様のご参加をお願い致します。

◆ 開催概要

- (1) 日程 令和6年1月19日(金)、20日(土)
- (2) 受講方式 Zoomによるオンライン講座
※演習を含む講義についてはブレイクアウトルーム(Zoomの機能)を使用したグループディスカッションを予定
- (3) 定員 看護師70名(正看護師)
- (4) 参加費 会員8,000円、非会員11,000円
- (5) 申込方法 埼玉県慢性期医療協会HP内、下記専用申込フォームよりお申し込みください。
【埼玉県慢性期医療協会HP <http://saitama-jamcf.com>】
テキスト類は別途郵送、参加案内・参加費請求書などを適宜送付致します。
- (6) 締切日 令和5年12月20日(水)(定員に達し次第締め切りとさせていただきます)
- (7) 連絡先 〒356-0051 埼玉県ふじみ野市亀久保2197 富家病院内
埼玉県慢性期医療協会事務局 Tel049-264-8811 Fax049-264-8777

※ 本研修は診療報酬上の「認知症ケア加算2・3」の加算要件に該当します。

※ 本研修に参加された方には当協会より修了証書を発行いたします。

(遅刻・早退・中抜けなどがある場合は修了証書を発行いたしかねます。)

※ オンライン講義となるため、ネットが繋がる環境をご準備ください。

◆ オンライン講座中の在籍確認のため、お申し込み時受講者の顔写真の添付をお願い致します。

◆ プログラム 《 1日目 》 令和6年 1月19日 (金)

9:55~10:00	開講挨拶
10:00~12:20 うち講義 60分 演習 70分 休憩 10分	行動・心理症状 (BPSD)、せん妄の予防と対応法 (演習含む) * 講師: 富家隆樹 (富家病院 理事長) 認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。ケアのレベルアップによって、これらの問題はどうか変わっていくのかを考えよう。 (演習) 参加者各自がBPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションを通して考える (ブレイクアウトルーム機能使用)
12:20~12:50	昼食
12:50~14:20	認知症の原因疾患と病態・治療 * 講師: 丸木雄一 (社会福祉法人シナプス 理事長) 看護師も医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。
14:20~14:30	休憩
14:30~16:00	認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援 * 講師: 田中圭一 (医療法人笠松会 有吉病院理事長) 身体拘束が認知症の人に与える影響、エンドオブライフの意思 確認など、患者、家族の視点に立ちサポートすることを考えよう。

《 2日目 》 令和6年 1月20日 (土)

10:00~12:30 うち講義 60分 演習 80分 休憩 10分	入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術 (演習含む) * 講師: 小泉則子 (永生病院 認知症看護認定看護師) 認知症の人に適切な看護を提供する為には、そのファーストステップとして、アセスメントを基にケアプランを立てることが必要であろう。そのために知っておかなければならない事、見落としはならないことは何かを考えよう。 (演習) 認知症のある患者の実際の様子をビデオを用いて数症例提示し、症例のアセスメントを提示し、その患者に対するアセスメントの情報として求められているものは何か、また、必要な援助技術は何かを考える。
12:30~13:00	昼食
13:00~15:30 うち講義 30分 演習 80分 休憩 10分 まとめ 30分	コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法 (演習含む) * 講師: 小泉則子 (永生病院 認知症看護認定看護師) どのように認知症の人とコミュニケーションをとればよいのか。その人が暮らしてきた生活環境を大切に、施設内での環境、あるいは地域での環境を整え、より穏やかに過ごしてもらうことを考えよう。 (演習) 重度認知症の困難症例を提示し、コミュニケーションのとり方、医療チームでの対応の仕方などをディスカッションを通して考える。
15:30	閉講